研究室紹介

福島県農業総合センター 生産環境部 作物保護科

福島県農業総合センターは，2006年（平成18年）に当時県内にあった農業関係の試験研究機関などを再編統合して発足しました。

現在，郡山市にある本部のほか，福島市に果樹研究所および畜産研究所（猪苗代町に畜産研究所沼尻分場），会津坂下町に会津地域研究所，相馬市に浜地域研究所，南相馬市に浜地域農業再生研究センター，矢吹町に農業短期大学校（アグリカレッジ福島）があります。

本部には事務部，安全農業推進部，企画経営部，生産環境部，作物園芸部，有機農業推進室の5部1室があります。このうち生産環境部には当作物保護科のほか，土壌肥料や土壌中の放射性物質対策等に関する研究を行う環境・作物栄養科，農産物の流通および加工に関する研究を行う流通加工科の3科があり，当科は7人の体制で，果樹を除く農作物に対する病害虫の試験研究業務に当たっています。

それでは，令和2年度に当科が取り組んだ主な研究の概要を紹介します。

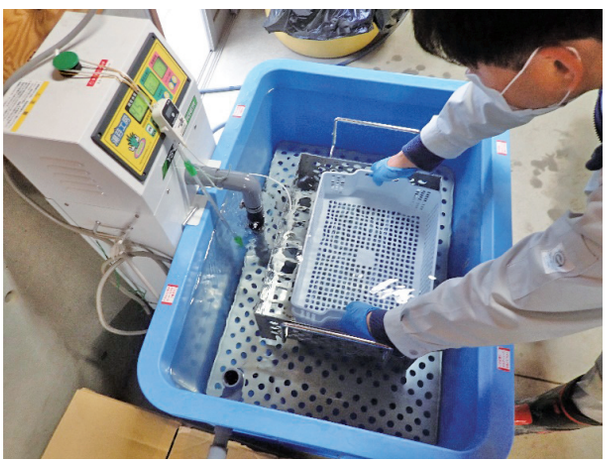
○斑点米カメムシ類に対する効率的防除技術の開発

斑点米カメムシ類については，県内における現在の主要種のうち，アカスジカスミカメとクモヘリカメムシに対する研究を行いました。

このうちクモヘリカメムシは，これまで本県における生息域は沿岸部と内陸部の一部地域とされていました。

福島県農業総合センター本館

〒963-0531　福島県郡山市日和田町高倉字下中道116
TEL　024-958-1716



キク挿し穂の温湯浸漬処理の様子
（手に持ったかごで挿し穂を押さえています）

近年，これまで発生が見られなかった地域で確認され，生息域の拡大が懸念されていることから，県内の分布状況を調べています。

○出荷ロス低減を目指した効果的なキク白さび病防除技術の確立

「食料生産地域再生のための先端技術展開事業（JPJ 000418）」の一環として取組んだものです。この事業を活用して，本県では浜通りを中心とした東日本大震災の被災産地の復興・創生のために，様々な課題に取り組んでいます。

この課題では，キク類における重要病害であるキク白さび病に対して，親株由来のキク白さび病菌を本圃に持ち込むリスクを低減させる方法として，挿し穂の温湯浸漬処理に関する研究に取組みました。さらにこの技術に，気象条件などから推測したキク白さび病の感染リスクに応じた薬剤散布（適期防除）を組合せた防除体系を構築しました。

これらのほか，農林水産省からの委託プロジェクト研究「人工知能未来農業創造プロジェクト」の「AIを活用した病害虫診断技術の開発」に参画しており，県内で発生するキュウリの主要病害虫の画像取得および共同参画機関が開発した人工知能の精度検証にも取組んでいます。

（科長　岸　正広）

植物防疫